

胎内市観光振興ビジョン策定委員会<第1回> 議事要約

- 開催日時：平成30年7月18日（水）午前10時～午後12時
- 開催場所：胎内市役所2階 大会議室
- 出席委員：梅川智也、平川啓一、高橋幸直、須貝建雄、佐藤稔、安城あゆみ、朽網裕子、
近真由美、久世俊介、鈴木高世（敬称略）

1 開会

2 挨拶・自己紹介

- 市長あいさつ
 - ・ 第2次胎内市観光振興ビジョン策定委員会は3回の予定だが、必要であれば回数を重ねて議論をお願いしたい。
 - ・ 第1次ビジョンはオンリーワンを目指すなどの方針が中心であったが、今回はなるべく具体的なご意見をお聞きしたい。
 - ・ こんなところがある、こんな体験をしたらもっと良い、などの意見が積み上がって第2次のビジョンになれば良い。
 - ・ 胎内市の観光は、うまくいっているようで、いけないところもある。魅力の発信や掘り起こしが足りないのか、また観光メニューが充実していないのか。行政内部では気付きにくいところもある。
 - ・ 来訪者に対して様々なことを提供する関係事業者がいるので、交流人口が増大し、地域が儲かる仕組みを考えてもらえれば良い。いろいろなものを体験してもらい、うまく儲かるのが良いバロメーターではと思う。
 - ・ 和やかに楽しく、忌憚のない意見を出して欲しい。
- 各委員自己紹介（省略）

3 議題

(1) 会長・副会長の選任について

- 事務局より、会長に梅川委員を、副会長に平川委員を選任する提案がなされ、了承された。

(2) 第2次胎内市観光振興ビジョン策定の進め方について

- 事務局より資料説明。
委員 胎内リゾートエリア、樽ヶ橋エリアとは、具体的にはどのあたりを指すか。
事務局 樽ヶ橋エリアは動物園などがある下赤谷周辺で、施設だけではなくエリアを指す。
胎内リゾートは夏井より上のイメージである。樽ヶ橋は胎内リゾートエリアの玄関口の役割もある。

委員 観光ビジョンの実効性はどれぐらいのものか。

委員 これは重要な点である。また、第1次ビジョンの総括が必要ではないか。

事務局 第1次ビジョンの成果と課題について、次の議題で議論をお願いする予定である。

委員 観光ビジョンは法律に基づくものではないので実効性は難しいところだが、地域によって工夫ができるものでもある。

委員 総合計画の議論でも質問したが、計画を作って終わりだと、次に別の計画の議論で集まる際に、また同じようになるのではという気になってしまう。

事務局 第1次ビジョンの総括が話題になったので、次の議題に進ませていただき、またご意見頂ければと思う。

(3) 第1次胎内市観光振興ビジョンの成果と課題について

●事務局より資料説明。

委員 成果と課題は、誰が責任を持つのか。やりっぱなしになってしまうので、次のビジョンでは責任を明確にしていく必要があるのではないか。

委員 このような計画の構造として、ビジョンとアクションプランというものがあり、アクションプランは3年くらいを目途にやるものである。単年度の計画だと役場の予算の話になる。例えば3年間のアクションプランで、誰が、いつ、どうやるのかを明確にするとわかりやすいが、今回はビジョンなので、どこまで踏み込むか。

第1次ビジョンは考え方としてはしっかり出来上がっているので、そこから方向性は大きくは変わらないのでは。

内容としてビジョンの部分とアクションの部分の部分を明確にする必要はあるのではないか。アクションは5年もしくは3年に分け、その期間で何を重点的にやるかを決め、担当を明確にするとうまくいくと思う。

事務局 ビジョンは大きな方向性を示すもので、その下にあるマスタープランとアクションプランは実施計画になる。今回は、実施計画に相当するものが対象としているエリアに胎内リゾートと樽ヶ橋エリアしか入っていない。

委員 ビジョンの下にアクションプランがあると行政は動きやすいが、そこまで踏み込むかどうか。

委員 今回のビジョンはリゾートエリアなどに特化したものか。

事務局 ここで考えるビジョンは市全体が対象である。

委員 実行する立場からすると、KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標) の設定があると PDCA (Plan 計画-Do 実行-Check 評価-Action 改善(実行)) が出来るので、改善がしやすい。

委員 第1次ビジョンは胎内リゾート再建を柱としつつ、合併からまだ数年であった事もあり市全体の観光ビジョンを作った。今回はステップアップし、KPI を設定して PDCA を回していく事がポイントか。そうすると責任も明確になり成果もわかりやすい。良い循環を作っていく事がビジョンの役目だと思う。

委員 第1次ビジョンの米粉の取組 (米粉フェスタやべえべえの開発) は成果が出た取

組と思うが、アクションプランがあったのか。その経緯を教えて欲しい。

事務局 第1次ビジョンの会議中に、米粉は知っているがあまり市内で味わうことがないという話があり、戦略の中に重点項目として位置づけた。アクションプランとして明確に位置づけた計画を立ててはいないが、国の助成事業活用などのために取組のステップを構築したことが結果的にアクションプランのようになり、進められた。

委員 このビジョンは誰向けに出すものか。

事務局 観光は裾野の広い分野である。観光業界に係る人はもちろん、市民の皆さんとも一緒に取り組めるものにしたい。

委員 市民に何かをやってもらう事を望むのか。

事務局 観光施設だけが観光ではなく、観光によって商工業が潤う、市民が胎内を誇りに思うなど、いろいろ関わりが出てくるのがこのビジョンだと思う。それぞれの立場で何ができるのかが分かるように作っていければ良いと考えている。分野ごとに責任を決めて具現化することも必要だが、みんなに知ってもらわないと同じ方向に進まない。

委員 第2次ビジョンを、第1次ビジョンの本体のような文章量や内容で市民に配布しても読まないし、なかなか理解は出来ない。目的が達成できるような内容にしないとイケない。

委員 パブリックコメントは、どうやるか。

事務局 ホームページに案を掲載して意見を募ることになると思う。なお、総合計画の際のパブリックコメントの件数はそれほど多くなかった。

委員 パブリックコメントは計画に対して正式に市民が意見をやる場である。別途、市民にどのようにビジョンを広めていくかの手法も検討する必要がある。

委員 市民の意識改革は重要と思う。以前は新潟市に動物園がなかったので、よく人が樽ヶ橋遊園に来ていた。やりようによってはもっと人が来ると思う。胎内市民にとって元々ある資源だということで意識していないものもあるので、より多くの市民に魅力をわかってもらっていかないとイケない。

委員 まずは観光の意義から話さないと必要性を感じない人がいる。

委員 観光は総合産業なので皆に関係するが、一方で一番どうでも良い分野にもなってしまいうため、その辺をどう伝えるか。

委員 ビジョンと並行して意識改革は必要である。草の根的にやっていくしかない。

委員 成功事例を見てもらうのがいいのでは。

委員 米粉の取組ははととても良い事例と思う。胎内が米粉発祥の地という話もだいぶ広まった。以前に市民を主役にした米粉の取組プロセスをまとめた冊子をつくったと記憶しているので、それを配布する事も考えられる。

事務局 冊子の原稿はあるので配布することは可能である。

委員 食べ物はやりやすいし、楽しく取り組める。

委員 米粉は、6次産業化している。農業としての米、それを加工した米粉、それを使った製品となっている。最終的に製品となったものだけに目がいきがちであるが、実際にはその手前からずっとつながっているものである。

(4)第2次胎内市観光振興ビジョンの方向性について

●事務局より資料説明

委員 胎内は山あり、海ありで、少しの移動でいろいろ楽しめるし、各エリアでいろいろやっているのだが、来訪客には複数の地区をめぐるてもらえない。胎内は、意外と道がわかりにくい。乙地区と胎内リゾートは近いのだが、地元の人でないと分かりにくい。

わざわざ検索しなくても、ビジュアルで移動ルートがわかりやすければ良い。移動する楽しさ（例えばひまわりがずっと道に植わっているなど）を提供できれば良いと思う。

委員 自分は胎内に住み始めて数年なので、どちらかというと観光客側の目線である。市民の意識を変えていくという話に関連するが、例えば市民に胎内市の良いところは？と聞いて、誰でもが4つ5つ紹介できてそれぞれ3分くらい詳細を語れるようなら、観光が根付いているという事だと思う。帯広に8年住んでいたが、そのときは説明できた。その状態になれば観光が根付いていると思う。

胎内リゾートは国道に看板があり、曲がると1本道で行けるが、看板が少なく心配になる。ランドマークはいろいろあるが、ぱっと見てわかるような看板などがあれば良い。看板も良いものであればインスタグラムなどにアップされるのではないかな。

樽ヶ橋遊園はちょっと入園料が高い。また、檻なども汚く動物の飼育環境が良いとは言えないため、テコ入れは必要ではないかと思う。

委員 今後外国人観光客も呼び込むことを考えると、動物の飼育環境については大きな問題と思う。

委員 周辺にも様々な施設があるが、樽ヶ橋遊園はもうちょっと何かに特化しても良いのではないかな。例えば、入園料を安くしてアルパカに餌（100円）をあげられるようにすれば、えさ代での収入も期待できる。

事務局 胎内の観光案内に関する看板（サイン）については、以前にデザイン等の計画を策定しており、看板の更新等のタイミングに併せて順次整備が進められている。サインが乱立してしまうと景観的な問題が出てきてしまうが、必要なところには設置をしていきたい。

委員 胎内リゾートは好きでよく行くが、キャンプ場などのトイレはかなり厳しい状態である。別の事業で、車いす等で入れるトイレなどのマップ整備を考えており、おむつ替えや授乳室などの情報も組み合わせてできたら良いと思っている。

キャンプ場を普段からBBQとしての利用が出来るようにするとか、フラワーパークも入場料を取ってBBQができるようにするなどしたらもっと人が集まると思う。

委員 皆さんの意見を聞いていて、胎内には山、海、川はあるが、行きたいところになっているのか、外から来た人にとって魅力あるものになっているのか、改めて考えてしまった。何をすれば良いかは明確ではないが、草を植えるとか、もう少し何かできればと思う。動物園も村上の黒塚のようにみんなが参加し塗ったりすることで改善で

きるなら、そういうやりかたも良いかと思う。

委員 様々な団体に所属していて感じるのは、わかりやすいのは毎年恒例のイベント実施である。他にも波及しやすいと思う。大きくてわかりやすいイベントはスキー場のカーニバルである。このイベントにより胎内にスキー場があることがわかってもらえる。四季折々や場所に特化してイベントを企画すれば、周りの整備もされるし、地元民にも良いところになる。毎年恒例の大きなイベントを開催して定着できれば良いのではないか。

委員 市民が体験して理解できれば、良さを発信できるようになるのでは。

委員 自分は胎内の観光マップを見たことがない。観光資源の説明も3分も出来ないが、多分誰も出来ない。自分はボランティア活動などを通じてある程度胎内の観光資源をわかっているが、普通の人にはわからないし説明できる人はごくわずか。市民に「胎内にはこういうものがある」ということを熟知してもらうこと、市民が胎内の良いところを感じた上で発信していくことが、まずは第一歩ではないか。

委員 胎内検定はそういう趣旨で始めたのではないか。

委員 胎内検定は、市内の人が胎内を分からなすぎるという事で始めたので、最初は外部を意識していなかった。受検者は市内の親子が多い。筆記ではなくお米を食べ比べたりして当てたりする体験型のご当地検定である。

委員 娘がいるので、トイレは重要である。キャンプ場のトイレが汚いと聞き、娘が行かないと言った。トイレのブラッシュアップは必要ではないか。特に子供が来る施設は重点的にやった方がいい。

胎内に行けばこれが出る(パラグライダー、ハングライダーなどのアウトドア)、といったアピールをもうちょっとしても良いのでは。阿蘇の方で斜面を下るポッカールというのがあったが、下るだけなので誰でもできる。ハングライダーなどは予約すれば講習も受けられる。

アクティビティをもっとやりたいと思う。ツリーイングは木の枝に特殊な結び方でロープを結びつけて登る。まずは市民の方に楽しんでもらえたらいいと思う。プラスおいしいものが食べられれば、市外の人にも広がっていくのではないか。

坂井地区では、来年2月スキー場を使って、体験型をやりたいと思っている。雪はタダなので大きな滑り台を作ったり、竹スキーをしたい。

委員 組織化やビジネスへの展開はありうるか。

委員 まず第1回は村松浜と山手の子供たちでやり、以降は拡大できたら良いと思う。

委員 国内のDMO (Destination Marketing/Management Organization : 観光地域づくりの舵取り役を担う法人) の好事例を見の中で、南信州観光公社の桜守があった。これを地域で紹介したところ、自分たちの所でも出来るのでは、とおじいさんがやる気になった。観光を広義に捉えれば、高齢者の生き甲斐や健康増進になるのではないか。夏井の千本桜やきのと桜など市内にいくつか桜の名所があるので、プランができると思う。

今までは行政と観光業者で話していたが、これからは市民にどのように参画して

もらうか、どう巻き込むかがビジョンのポイントになってくる。

委員 台湾の人は桜が好き。桜はインバウンドでも使える。ヘルスツーリズムもあり得るだろう。

委員 胎内で DMO を立ち上げたい。障がいのある方や外国人など、誰でも安心して来てもらえるよう、また笑顔で受け入れられるような胎内にしたい。市民のみんなが、胎内の良さを言えるようにしていきたい。

委員 DMO とは従来からある観光協会よりも科学的なデータ分析や観光地を運営する視点に立って観光地域づくりを推進する組織のことである。現在、観光庁が日本版 DMO の登録等の取組を行っているが、DMO は地域にあった方が良い。

訪れた人を笑顔で迎えるのは観光の基本である。また、ユニバーサルデザインの概念も必要である。東京都は 2020 年のオリンピック・パラリンピックを控えて取り組もうとしているし、沖縄でも取り組んでいる。胎内も人が優しいので、そういう概念を盛り込んでいければ良いと思う。

4 その他

事務局 行政にとっては厳しい意見も出たが、全て胎内にとって良い意見と感じた。なお、樽ヶ橋遊園は、今年あるいは来年にはトイレや動物の檻の整備を進める予定であることをお伝えしたい。

自分は今年 4 月に異動してきたこともあり、観光についてぴんと来ていない部分があったが、それは市民に観光の意義が伝わっていないのと同様のことだとも感じた。今回ビジョン策定に取り組む事で自分も市民も認識が深まってくると良い。今後ともよろしくお願ひしたい。

事務局 第 1 回委員会はこれで終了としたい。8 月下旬～9 月上旬開催予定の WS なども踏まえてビジョンのたたき台を作り、第 2 回委員会では 5 割ぐらいの完成度のものをお示ししたい。

5 閉会

以上